



8/3 こども夏フェス

生涯学習センターの青空広場・ホワイエで、こども夏フェスを開催しました。スパーキッズの小学生が各遊びのコーナーの担当となり、フェスに訪れた方は、射的や金魚すくい、ダーツなどを楽しんでいました。スパーキッズのメンバーは、「遊びに来てくれた人が楽しんでくれたのがうれしい。」と話していました。夏の素敵な体験になったそうです。



7/26 寺子屋まつだ 夏休みの巻

寺子屋まつだ〜夏休みの巻〜では、食育講座や実験、手芸、工作、英語など、9つの講座を開催しました。この日は、「お菓子作り・ミニチョコを溶かしたり、トッピングしたりとグループで協力して活動していました。チョコを混ぜる下級生たちの容器をそっと押さえ、支える上級生。こうしたことが自然にできている…心温かくなる教室風景でした。



松田 文化財探訪

松田の災害史 その5

文化財保護委員 桐生 海正

絵図に残された噴火の爪痕

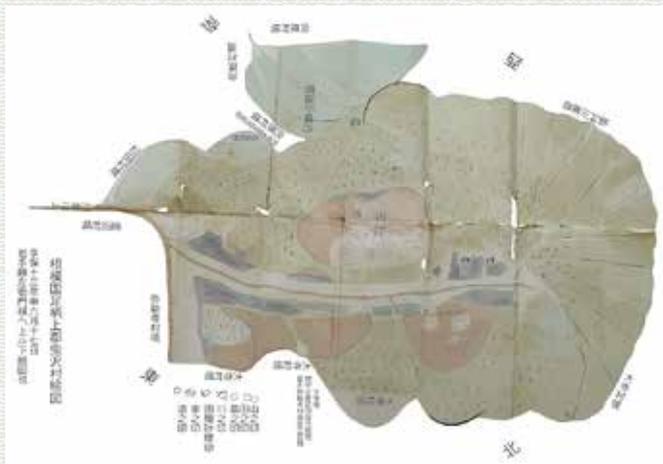
宝永四(1707)年の富士山の大噴火により、火山灰が降り積もった村々は、いかに復興に向かっていったのでしょうか。

ここで、享保一三(1728)年の虫沢村絵図をご覧ください。

図は当時幕府の領地となつたこの地域を支配した代官の岩手藤左衛門に提出されたものです。

集落の周りを囲む茶色の部分は、畑です。山野は薄黄緑色に塗られ、「T」マークの樹木が描かれるなど、噴火から約二〇年を経て、ある程度復興や植生の回復が進んだことがわかります。一方で、虫沢川沿いを見ると、灰色の箇所が多く見られます。これは「砂埋」「砂」は火山灰のことの箇所

です。山間村落の人々は、田畑の再開発を進め、そこで出た残土(火山灰)を川沿いに投棄していったようです。こうした行動は、復興の進展とは裏腹に、噴火の二次災害である河川氾濫を引き起こす一因ともなっていました。



享保13年の虫沢村絵図(トレース)
(虫沢区有文書 状村況(絵図)と)